

千葉城 Q & A



Q：千葉城はだれの城だったの？

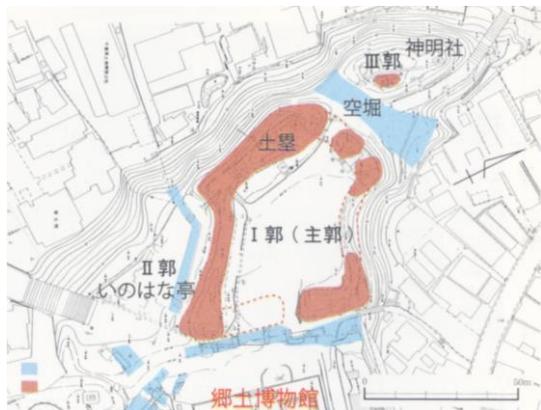
A：【千葉氏が本拠とした城（館＜やかた＞）】千葉常重（ちばつねしげ）が大治元年（1126）に上総国大椎（千葉市緑区大椎町）から千葉に本拠を移したと伝えられています。その子、千葉常胤（ちばつねたね）の代には千葉を本拠として、各地に勢力を伸ばし、東国を代表する武士団に成長しました。

千葉城は、康正元年（1455）に一族の馬加康胤（まくわりやすたね）や原胤房（はらたねふさ）に攻められ、当時の宗家は滅亡してしまいましたが、それまでの約 330 年間は千葉の城（館）を本拠としていたと考えられています。その後、跡を継いだ馬加系の千葉氏は文明年間（1469-1487）に拠点を本佐倉城（もとさくらじょう、佐倉市・酒々井町）へ移しています。

Q：千葉城はどこにあったの？

A：【諸説あってはっきりしない】長い間、千葉氏の住んだ館はこの博物館のある場所も含む台地上の「猪鼻城跡」（いのはなじょうあと）であると考えられてきました。しかし最近の研究では、当時の館は平地に置かれることが多く、台地上のこの場所ではなく、ふもとの平地にあったという説が有力視されています。また、過去数回行われた猪鼻城跡の発掘調査でも現在のところ常胤時代の館があったことを示す決定的な資料は見つかっていません。

ただ、千葉氏の館が平地にあったとして、場所については研究者によって主張が異なっており、はっきりしたことはわかっていません。



Q：「猪鼻城」ってどんな城？

A：【戦国時代の原氏の出城か】博物館の周囲一帯は城跡であり、地名をとって「猪鼻城跡」と呼ばれています。博物館の前の亥鼻公園広場部分が主郭（しゅかく、城の中核部分）で、土塁や空堀が残されており、その特徴から戦国時代の城跡と推測されています。当時天守閣を持つような城は存在せず、櫓（やぐら）や簡素な小屋のような建物をもつ城だったと考えられます。16 世紀半ばのこの時代からすれば千葉氏の家臣であった原氏の出城的

な役割を果たしていたのではないかとされています。発掘調査では 13 世紀頃の蔵骨器（骨壺、当館で展示中）や五輪塔なども発見されており、古くは墓地などであったと考えられています。

Q：現在の建物はいつごろ建てられたの？

A：【昭和になって建てられた】昭和 42 年（1967）に建てられた、4 層 5 階の天守閣を持つ鉄筋コンクリート造りの建物です。当時、千葉市の文化を伝える新しいシンボルとして建設されました。高さは約 30m あります。外観は、千葉氏と関係の深かった北条氏の小田原城を参考に設計されました。



千葉市立郷土博物館